Fantasy Story

カケル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｆａｎｔａｓｙ　Ｓｔｏｒｙ

【Ｎコード】
Ｎ１６９２ＢＡ

【作者名】
カケル

【あらすじ】
それは一人の人間の運命の終わりを告げに来た神様と出会う。
陽気で軽い神様と後数分の命の人間、転生したい？じゃあこのタッチパネルに詳細書いてね。
転生できる世界はこの世界と異世界のどちらも可能、どちらに行くかは
あなた次第！
この世界で生まれ変わる？異世界で新たな人生をスタートする？
決めるのはあなた次第。

（前書き）

なんでもありです。

回りは天井も床も壁も何も無い。
こういう言い方のほうがいいのか？上も下も右も左も何も無い真っ白な空間に自分は居る。
何故この空間に居るのかは分からない、というか知らない。
「・・・・誰か～いませんか～？」
少し大きく声を上げてみた・・・・しかし返事は無いただの空間のようだ。
おいおいおい！マジで誰も居ないのか？急にこんな真っ白な空間に・・・・。
「なんだあれは？」
目の前に大きな光の球体が現れて大きく光りだした、眼に優しい光だ。
「いや～ごめんごめん、急にこんな空間に呼び出されたら誰でも驚くね！」
あはははと笑いながら話してる。
白いなんかフワフワした服を着た髪の長い中性的な顔を持った人らしき生物がいた。
「え～と・・・あの・・此処は何処ですか？」
「え？あ？此処？「ただの空間」だよ？」
「いや・・・「ただの空間」って言われても・・・専門用語とかですか？」
「違うよ？そのままの意味だよ、僕は神様で、君をこの空間に呼んだのさ！」
「何の神様ですか？」
「創造神！」
・・・・創造神ってなんだったけ。

「この世界を創った神様さ！」
「・・・・心を読まないでください」
マジで神様なんていたんだ・・・・
「すごいでしょっ！ぶいぶい」
創造神とやらの神様が右手でピースサインを作ってどや顔をしてくる
「いや・・・だから心読まないでください」
「うふふふふ、僕がこの空間に君を呼んだ理由・・・・・教えてほしい？」
「焦らさないでください」
「じゃあその敬語やめてね」
「う～いわかりやしたぁ～」
「急に軽くなったね」
敬語を使うなと言ったのはそっちだぞ？（笑）
「まぁ、まず簡単に僕が神様って言う証明をしなくちゃね。
僕は６代目創造神　月詠（ツクヨミ）　この世界を創ったのは最初の創造神・・・
・
人間で言うひいおじいさんかな？そして人間はビッグバンって言ってるけどあれはひいおじいちゃんが
力を使って創造したんだよ、そして僕のおじいちゃんを創ってこの地球や他の惑星を創造したんだよ」
「６代目って事は他にも？」
すごいな、神様って長生きっていうか永遠の命とかなのに６代って
「そして僕のお父さんが今の生き物の「元」をこの惑星に創り落としたんだ」
「けどそれじゃあ神様を含めた４代しか続いて・・・・」
ああ～そう言う事か、姉とか兄とか
「うん、そうだよ僕のお姉ちゃんやお兄ちゃんが他の世界・・・・
いわゆる異世界を創ったんだよ」
またどや顔ピースしてますよこの神
「まぁこんなところあんまり長居したくないから僕の部屋に来て」

そう言うと目の前に大きな扉があった、しかノブが無い
「開け・・・・」
「ゴマ？」
ズウゥゥゥゥンという重い音をたてながら大きな扉が開いた
「ちょっと～言わないでよぉ～」
ちょっと怒っているが俺が言って開いた理由が分からない、まぁいいか。
「ここが僕の部屋だよ」
そこは畳１２畳分ぐらいの結構広い部屋だった。
そこにタワー型のパソコンや４２型液晶テレビにＤＶＤプレイヤー、大型のゲーム機や小型のポータブルゲーム機、ウォークマン、携帯、漫画ラノベや大きなお友達が持っている薄い本まで置いてある部屋だった。
「座って座って、お茶は後で出すね」
座椅子が何時の間にか用意されていた
「なんだかスゴイ部屋ですね」
「ちょっと～女の子の部屋ジロジロ見なぁ～い」
あ・・・女の方でしたか、面目ないって・・・・そうじゃないわぁぁぁぁ！なんだ此処は！
「窓の外見ていいですか？」
「うん、いいよ」
そうやって立ち上がった俺は窓の外を見た、なんだか知っているような家々があちらこちらと並んでいる
そして最も注目したのはあの屋根の紅い家だ、窓からじゃあまり見えないがあの窓の位置そして玄関などが見える、そして自分の自転車が置いてある。
確実に俺が住んでいる家で俺の部屋の窓だった、そしてその部屋の窓の位置の奥にいて椅子に座っている「俺」が見えたのだ。
「なんだよ・・・・あれ」
動揺しているのだ、さっきの謎の空間でも少し動揺していたが今の

はもっと違う、今、現実で起きている事の「意味」が分からないのだ。
「あ～あれ？僕の目の前にいる君の実体っていうやつ」
は？実体？何がなんだかサッパリだ、言ってる事が分からない、じゃあ俺なんだ？魂とかか？
「うん、そうだよ」
「えっ？何を言ってるのか・・・・」
「簡単に説明するよ、僕は創造神だ、人を創ることは容易い、人の運命は決める事も出来る、けど一度決めた運命を変更する事は出来ない。
　人を創造したら「元」となる母親の身体に入れる、そしたら赤ん坊として生まれ、決められた運命という名のレールの上を歩く事となる。
もし、僕が人の運命を操れるなら君は此処に居ない、理由は簡単だよ愛着を持った人間の運命を捻じ曲げて死を回避させられる事が出来る、しかしそれはやってはいけない事なんだ、けれどこれは神の問題だから理由は言えない。それに君を此処に呼んだ理由まだ言って無かったね
僕は君が僕の家の前に住んでいる住人とは知っている、それに君の運命も。
人間の1日は長い、だからさっきまで君がしていた事を簡潔に言うよ。
君は学生カバンを肩にかけ「此処は本当に人が少ない」と言いながら道を歩いていた、そして家に帰りブレザーの上だけを脱いだ、そしてパソコンの電源入れた、椅子に座り荷物整理をしていた。
そこで僕が創った「ただの空間」に放り込まれた。」
「ど・・・・どうして俺なんかを？」
「僕は人の運命ややってきた事が見える、君の名前や年齢当て、最期はどうやって死ぬかを教えてあげよう」
「何故俺なんかが選ばれたんだ？」

「簡単だよ、ただ家の前に住んでいる住人が後数分で命を落とす事に気づいたからさ」
「俺が？何で死ぬんだ？」
「人間の死期なんて僕には丸見え、さぁ、話の続きだよ。
君の名前は　川田翔（かわたかける）　年齢１７歳　誕生日は７月の１０日だね
君の最期は家に入った強盗に背中を刺されて出血多量で死亡、死亡時間は・・・・」
「もういい、もう話さないでくれ」
すこし唖然としている、強盗？そんなヤツが何故家を？
「しかし、君は運がいいな」
何故？殺されて運がいい？死んで喜ぶ奴かお前は？
「違うよ、君は本当に運がいい、死ぬのは嫌と思うが君は好きなように輪廻転生が出来るんだよ？」
なんだ何言ってるんだお前は
「だから君の好きなように輪廻転生させてあげるし特殊能力もおまけしてあげるよ？」
り・・・輪廻転生？生まれ変わるって意味か？
「うん、そうだよ」
「と言う事は俺は好きなように生まれ変わる事ができるのか」
「だからそう言ったじゃん」
マジかよ・・・じゃぁ異世界とか行けるのか？マジでかよ
「あ～君後１分で死ぬは、少し痛みを感じるかもしれないけど我慢ね」
・・・・え？あと１分？
「１０、９、８，７，６，５、・・・・・」

「っがっぁ！？？」
何か、背中に冷たい鋭利な刃物が突き刺さる感覚、最初は痛くないが刃物が深く刺さっていく事に痛みを
感じる、スゴイいたい、ものすごくいたい、メッチャ痛い、パネェ

わぁ・・・・マジで。
「ハイ！後数十分で君はお亡くなりになりますぅ！」
そういいながらタッチパネルを渡された、そこにはこう書いてあった。

転生したいところ　この世界・異世界

言語設定（異世界限定）　異世界の言語・自分に分かる言語

どのような異世界　［　　］

名前

年齢

誕生日

容姿

持ち物（年齢を１０歳以上にした場合）

・・・・・・・・・・・・

・・・・・

特殊能力

・

「・・・・なんだこれ？」

（後書き）

誤字脱字などがあればコメントヨロシクです。
主人公の名前は決めるのが面倒なので川田翔を統一します。
他のキャラクターの名前は毎回適当です、異世界って事は外人っぽい名前が多いな
前回は打ち切りをしましたが今回はありません。
結構長いストーリーかもしれませんが今回もよろしくお願いします

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1692ba/

Fantasy Story

2012年1月4日10時47分発行